

# 新入園児のスキップ調査

静岡県立保育専門学院

小木曾光子

(一) 目的 リズム遊びにおいてスキップの出来る出来ないという事は子供達に取って保育園や幼稚園の生活を楽しむ上に大きな影響があることを常に見る所である。故に私達は自由遊びの場に於いてそれとなくスキップの出来ない子供を見つけ出して適当な方法で一日も早くスキップが出来るように指導しなくてはならない。それには先ずスキップでの発達段階を明らかにしてその指導法を確立させなくてはならないのでスキップで調査をすることにした。

(二) 方法 ABCの三つの場を作り七つの項目について個別的に調査をした。(A)の場とは子供にスキップをしましょうと云わず子供の手を取ってスキップをする。(B)の場はスキップをしましょう先生の足をよくみてまねしてねと指示する。(C)の場とは音楽に合わせてスキップをしましょうと云って行う場である。七つの項目とは先の三つの場に於いて子供が現わす状態を分けたものである。(1)両足を一緒に上げてぶら下がる(2)すり足でついでくる(3)片足跳びでついでくる(チンチン) a(4)片足跳びの足を左右回数をかえてついでくる(左右b) (4)片足跳びの足を左右交互に取り変えるからテンポが遅いスキップで(5)小走りをついでくる(6)歩いてくる(7)以

	男	女	計
一年保育	220	224	444
二年 "	137	123	260
三年 "	25	36	61
四年 "	1	2	2
合計	3813	385	726

上の六つの型の混合されたもので(1) a (すり足ケンケン) (2) b (ケンケン) (3) c (小走りケンケン) (4) d (小走りケンケン) 足取りかえる(5) e (歩きケンケン)等。

(三) 対象 新入園児

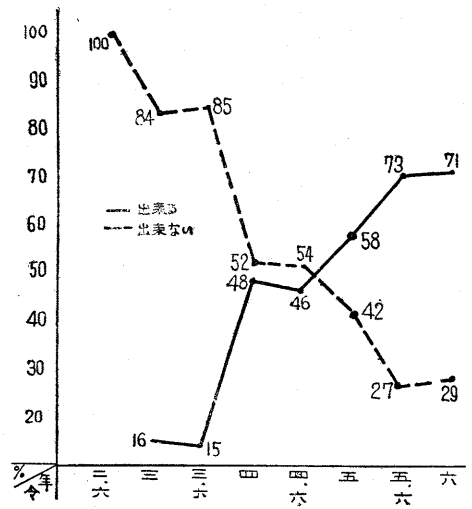
(四) 調査期間 昭和三十年自四月八日から二十日迄

施設	スキップ	スキップ	
		出来る	出来ない
幼稚園	1	72%	28%
	2	68 "	32 "
	3	70 "	30 "
保育園	4	54%	46%
	5	49 "	51 "
	6	47 "	53 "
	7	46 "	54 "
	8	44 "	56 "
	9	40 "	60 "
	10	39 "	61 "
平均	54.4%	45.6%	

である。第二表はそれ等の子供を年令別に表わしたものであってこれによって新入園児の半分はスキップが出来なく又四才の終り頃が出来るか否かの交叉点となっている事が解った。新入園児の半分以上も出来ない子供のいる三つの園で更にBCの場について調査を進める事にした。第三表はそれ等の子供の年令別を現は五・六が多くBには二・三が多く見られる。これによって私達はAわしたものである。

(五) 結果について

第一表幼稚園三ヶ所保育園七ヶ所についてAの場に於いてスキップが出来るか否かについて調査した結果を%で現わしたものである。



に田中B式と三才児には山下先生のを用いた。此の他に体力測定してみたら片足跳の左右の差が四分の一以上で有るとスキップが出来ないが例えIQが劣であっても其の差が僅かであれば出来る子供も居たABC三つの場で調査続けた百三十一人が各々の場で現わした型を集計して順位に並べたのが第五表である一見して解る事は5・6が一番多く次に2・3が見られ次は4bで後は大体同じ位である。然し三才、四才で4bを現わしている子供はIQの高い子供で四才六才以上の子供を見ると割合混合型が多く又四aも見られる。以上の事から考えてみると発達段階は六五二三四a四bのように考えられるが個人々々のスキップが出来る迄の路を数多く観察して見ないと確実な所の結論は出ないと思うが何か見通しがついた様な気がす

又IQとスキップの關係を見る為調査したのが第四表であるが日数の少い為知能検査は二つの園児百十六人しか出来なかつた。検査は四才以上

第三表

ABCの場で調査した年齢別表

性別計 年齢	性別		計	合計
	男	女		
6	可	1	2	3
	否	2	2	4
5.6	可	7	5	12
	否	16	6	22
5	可	7	3	10
	否	19	13	32
4.6	可	5	1	6
	否	15	4	19
4	可	6	0	6
	否	13	9	22
3.6	可	3	1	4
	否	10	7	17
3	可	0	1	1
	否	8	7	15
合計	可	29	13	42
	否	83	48	131

(六) 結果の考察 此の三つの表を眺めてみると自から指導法が浮び上って来る様な気がする。先ずAとBとを比べて見るとAにスキップの出来ない子供にBでスキップをしましょう先生の足を見てまねをしましょうと云う動機づけを与える事が大切だと思ふ。然しCの場で音楽に合わせてとか良く聞いてと云うとBで四bや混合型であった子供等が五や二に変化して逆もどりするような乱れがCに多く見られるから私はBで四bや混合型の子供等には音楽に合わせてとかよく聞いて等と余り強く云わない方がよいと思ふ。それは運動神経と聴覚とを同時に働かせると云う事から来る現象であるのではないかと考えられるし又一方音楽に対して感受性が強い子供だと云う事も出来よう。

(七) 結び そこで私は片足跳とスキップの關係を基として一つの指導法を考えてみた。それ等の子供達に自由遊びやリズム遊びの

第五表  
Aの場に現われた型の順位

順位		1		2		3		4		5	
年齢	性別										
6	男	2.	5.	50%							
	女	5.	6.	50%							
5.6	男	4a		37%	2	25%	5	18%	3.	7イハニホ	6%
	女	3		33%	2.4b	5	7ハ	16%			
5	男	5		26%	2	21%	3	15%	4b	10%	4a
	女	2		30%	3.	5.	7	15%			5%
4.6	男	5		33%	2.	3.	20%	6	13%	4ab	6%
	女	5		50%	2.	3.	6.	25%	70	15%	
4	男	5.	6	39%	4a		22%	4a	15%	3	70%
	女	5		22%	3	6	11%				
3.6	男	5		50%	2	20%	4a	6	10%		
	女	5		42%	3	28%	2	7イ	14%	4b	6
3	男	6		51%	5.	25%	3.	4a	14%		
	女	5.	6	42%	2	28%	4b	14%			

\* イ=2+3の形    ロ=3+4の形    ハ=3+5の形    ニ=5+4の形    ホ=6+3の形

Bの場に現われた型の順位

順位		1		2		3		4		5	
年齢	性別										
6	男	2.	4b	50%							
	女	5.	6	50%							
5.6	男	5		31%	2	25%	3.	6	12%	4a	6%
	女	2.	3.	5.	4b		7.	ロハ	16%		
5	男	5		26%	2	21%	3.	6.	7ハ	10%	4a
	女	2.	3.	5	4b	15%	7.	ロハ	7%		
4.6	男	2.	5.	6.	3.	13%	1.	7ハ	6%		
	女	5		50%	2.	3.	6.	25%	4b	6%	
4	男	6		39%	5	30%	2.	3	15%		
	女	5		22%	3.	6	11%				
3.6	男	5		30%	2.	4b	20%				
	女	5		42%	3.	28%	2.	6.	7イ	14%	
3	男	6.		50%	5	37%	4b	14%			
	女	2.5		14%	2.	28%	4b	14%			

Cの場に現われた型の順位

順位		1		2		3		4		5	
年齢	性別										
6	男	2.5		50%							
	女	5.6		50%							
5.6	男	5.		37%	2.	3.6	18%	7ハ	60%		
	女	2.		66%	3	4b5	33%	7ロハニ	16%		
5	男	5.		31%	2.	6	15%	3	10%	7・ハ	50%
	女	2.		30%	3	4b5	15%	7ハロニ	7%		
4.6	男	6.		26%	5	20%	3	7ハ	13%	2.	6%
	女	3.	5.6.	7.	ハイ	25%					
4	男	6		39%	5	30%	2.	3	11%		
	女	4a5		22%	3	6	11%				
3.6	男	5		30%	2.	4b	20%	3.	7イ	14%	
	女	5		42%	6.	20%	3.	7イ	14%		
3	男	6.		50%	5.	37%	4b	14%			
	女	2.5		14%	2.	28%	4b	14%			

第四表 IQとスキップの関係

年令	性	優		中の上		中		中の下		劣	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
6						1	1				1
5.6		1		2	2	3	9	1	6		1
5				1	1	2	5	3	6	1	
4.6			1	2		1			1		
4											
4			1								
3.6											
3											
2.6		1	2	5	4	7	17	4	13	1	2
計											

合計 116人

年令	性	優		中の上		中		中の下		劣	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
6								2		1	
5.6						4	2	1		1	
5				1	1	4	4	2	3		1
4.6			1	4	1	1	1	1			
4				1	1	4	1	1			
4			1	1	1						
3.6				3	1	1	1	1	1		
3				1		1	2				
2.6					1			1	1		
計		0	2	10	5	17	11	8	4	2	1

中で石けりなわとび、片足跳びの鬼ごっこなどをなるべくさせて左右の片足跳びの開きを少くする様に指導したら良いのではないかと考えている。

(八) 残された今後の問題 IQとスキップの関係を知る為に精神薄弱児施設でも同様調査を行ったが正常児には見られない様な又名前のつけようもない様な型が見られた。聾盲啞児達にも同様の調査を行って見たいと思っている。あらゆる方面からスキップと云うも

のを眺めてみたならばスキップの発達段階が自然と現われてくるのではないかと思いますので今後とも此の様な研究を続けて行きたいと思つてゐる。又指導法についても其の実際をしたと思つてゐる。

## 幼児の質問と保育課程の構成

埼玉大学

野間 郁夫

### 一、質問調査の目的および方法

幼児の質問を知ること、彼らの興味、関心の対象、方向を探る一つの大きな手掛りを与えるものである。よつて幼児の質問を調査し、以て保育課程の構成に資せしめようとするのが本調査の目的である。

本調査は埼玉大学附属幼稚園児四三名および三一名計七四名について、それぞれ二ヶ年づつ継続して行つた。幼稚のIQ平均は二二〇・九(新乙式団体知能検査)である。父兄の職業は会社員、公務員、教員等所謂サラリーマンが七四%、医師、画家などの自由業一六%、商業が一〇%であり、概ね市街住宅地に居住している。

調査の方法は家庭における幼児の自発的な質問を父兄が随時渡してある手帳に記入するという方法で、趣旨および方法については事前に指導した。結果として、熱心に書いた父兄と然らざるものがあり、記入漏れの質問も多数あると思つたが、総数を増すことによつてその欠陥は補いうると考え、ここでは総数を問題とした。調査は